

砂防を発信するカード類についての実態と有用性向上に向けた一考察

(一財)砂防フロンティア整備推進機構○谷知幸、蒲原潤一、井上公夫、中根和彦、眞木渉、森みちる

砂防図書館 松本美善

1. はじめに

直轄砂防事務所や都道府県が発行している砂防カードは、縦 6.3cm、横 8.7cm(名刺よりひと回り大きなサイズ)のカード状を呈し、表側に施設の外觀を示す写真、裏側に施設諸元や目的、建設当時の様子など施設にまつわる興味深い情報が記載された砂防関連施設紹介ミニリーフレットである(図1)。ダムカードなどの他のインフラ施設に関するカードと同様にサイズや記載内容、色調を合わせるなどおおむねの統一感を持って作成されており、コレクター心理に訴えるものとなっている¹⁾。記載できる情報量は他の広報手段と比較すると少ないものの、記載内容に強い条件はないため、作成者の思いなどがより濃く反映されると思われる。

本研究では砂防を発信するカード類の有用性向上のために、砂防の情報発信について考察し、砂防カードの実態を調査した。



図1 砂防カードの概要(関東地方整備局 HP より)

https://www.ktr.mlit.go.jp/ktr_content/content/000866071.pdf

2. 砂防の情報発信の効果について

砂防カードは砂防の情報発信手段の一つであり、情報発信は「カード」以外にも様々な手段で実施されている。特に昭和58年より開始した毎年6月に実施されている土砂災害防止月間では、多くの情報発信がされており、国土交通省や都道府県、市町村等が住民に土砂災害の防止や被害軽減の重要性についての認識・理解を促進している。本研究では砂防の情報発信の効果を下記のⅠ～Ⅲに分類した。

Ⅰ 住民の警戒避難促進

近年激甚化・頻発化する土砂災害を住民に自分事ととらえてもらい、実際の災害が発生した場合に警戒避難を促すことが期待される。

Ⅱ 砂防事業の理解促進

砂防事業の必要性を理解してもらうことで、円滑な砂防事業の実施等が可能になると期待される。また住民の社会資本整備に対する理解の進展は地域の安全確保も含めた社会全体の持続的な発展につながると思われる。

Ⅲ 中山間地域等の地域づくり支援

ダイナミック SABO プロジェクトに代表されるように、砂防を観光資源として活用し情報を発信することで、特に中山間地域の地域づくり支援や地域活性化につながることが期待される。砂防やわが国の個性豊かな地域の歴史・伝統・文化を知り体験することは、地域を大切に思う気持ちの涵養や、日本人としてのアイデンティティの確立などウェルビーイングの向上に役立つと思われる。

3. 「カード」の媒体としてのメリット

砂防の情報発信にカードを利用する場合、広報ツールとして①～⑤のメリットがあると考えられる。

- ① 視覚的で情報量が多すぎないため、興味・関心を引きやすく、記憶に残りやすい。
- ② サイズが小さく嵩張りづらいため、イベント等で簡単なプレゼントとして使いやすい。
- ③ 防災教育等のグループ活動時にオリジナルカードを作ってもらうことが可能である。
- ④ コレクター心理が働きやすく、配布先が限定されるカードは地域への来訪の原動力となりうる。
- ⑤ QRコードを用いることで、カードに示せない情報量を補うことが可能である。

4. 全国の砂防カード調査

令和7年8月13日時点で砂防図書館に所有されていた砂防カード337枚(直轄195枚、都道府県142枚)について調査した。QRコードが記載されて

いたものは337枚中196枚(直轄104枚、都道府県92枚)であった(表1)。QRコードのリンク先を図2に示すA~Gに分類した。2.で分類したI~IIIとの関係は、A,BがIに、B~FがIIに、E~GがIIIに該当すると考えられる。

表1:調査した砂防カードとQRコードの有無

発行者	調査した砂防カードの枚数	QRコード有の砂防カードの枚数
北海道開発局	18	8
東北地整	45	3
関東地整	15	11
北陸地整	39	39
中部地整	35	25
近畿地整	14	7
中国地整	0	0
四国地整	16	0
九州地整	13	11
北海道	15	12
茨城県	1	1
新潟県	5	5
東京都	10	10
山梨県	6	6
長野県	63	40
愛知県	14	0
岐阜県	2	0
京都府	10	10
大阪府	1	1
福井県	4	4
広島県	6	0
長崎県	4	2
大分県	1	1
直轄合計	195	104
都道府県合計	142	92
計	337	196

直轄砂防事務所が発行した砂防カードのQRコードのリンク先はDの事務所のHPが多くを占めており、97.1%の事務所がII

を補足していたと考えられる。都道府県が発行した砂防カードのQRコードのリンク先は google map等の地図アプリを用いたGの砂防施設の位置情報が最も多く、次にDの県や事務所のHP、その次にEの砂防施設の紹介、その次がBの都道府県の砂防事業についてのHPという順番になっている。Iが9.8%、IIが35.9%、IIIが47.8%とばらつきがあり、都道府県ごとにカードに期待する効果が異なっていると考えられる(図3・図4)。

5. おわりに

砂防図書館では全国の砂防カードの実物が展示されており(図5)、保存・管理のために記載内容のデータベースを作成している。

「カード」を用いた情報発信はI~IIIの目的に応じて最適な情報を簡潔に示すことでより効果的になると考えられる。例えば長野県の災害伝承カードは、過去の災害の言い伝えを広めることで、防災・減災を目的として作成している。さらにQRコードによって掲載情報をweb上で補強・補完することで、より効果を高めることが期待される。現在筆者らは本研究を踏まえた「カード」の作成やQRコード先のHPについてより効果的な情報発信の手法を検討中である。

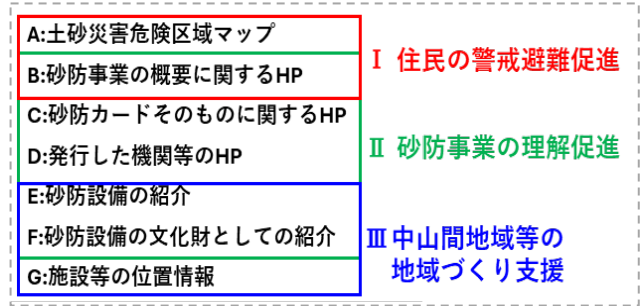


図2 QRコードのリンク先の分類

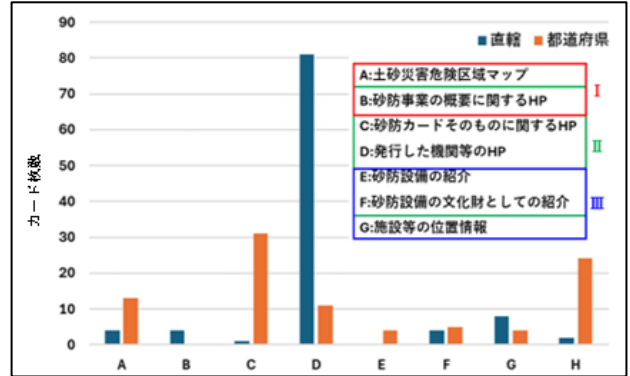


図3 QRコードのリンク先の分類別件数

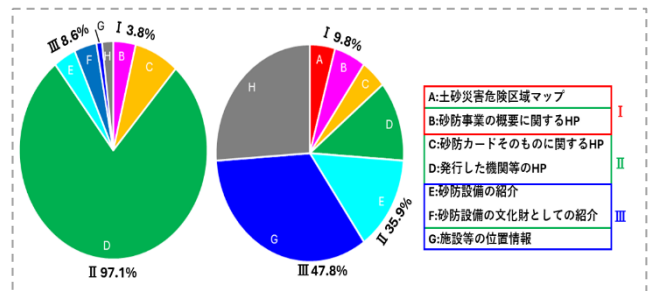


図4 QRコードのリンク先の分類割合 (左:直轄,右:都道府県)



図5 砂防図書館の砂防カード展示(谷撮影)

引用文献

- 1) 森下淳(2020):「砂防カード」の魅力と効果,砂防と治水, vol153, No. 2, p.68-74

参考文献・HP

- ・長野県姫川砂防事務所(2016):6種類の砂防カードを作成しました-情報発信と観光資源への活用を目指して-,砂防と治水, vol149, No. 5, p.75-77
- ・長野県HP 過去の災害に学ぶページ <https://www.pref.nagano.lg.jp/sabo/manabu/manabu.html>